



礎石に残る円柱の当たり痕〔径 36cm・1.2尺〕と被熱痕（北から）



電気管（昭和）  
乱石積基壇外装と北雨落溝に埋没した瓦（北西から）



基壇内を南北に横断する  
瓦組みの暗渠1（北から）



食堂への砂利敷参道〔回廊  
廃絶後：近世〕（南東から）



戦時中の防空壕とみられる長方形土坑〔回廊廃絶後：昭和〕  
（北東から）



東西 100m 以上の区画であることが判明した東金堂院（北から）

## 興福寺東金堂院北面回廊の調査

平城第649次調査 現地見学会資料（2022年10月15日）  
法相宗大本山興福寺・国立文化財機構 奈良文化財研究所

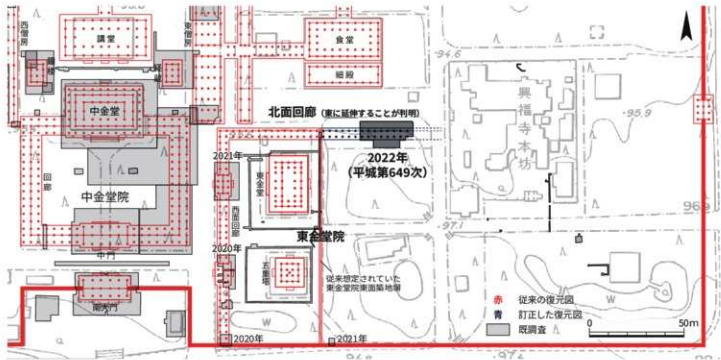


興福寺東金堂院北面回廊（西から）

## 発掘調査成果の概要

奈良時代創建の東金堂院は、中金堂院の東に位置し、東金堂を中心とする区画です。今回の発掘調査で、東金堂院北面回廊の礎石・基壇・雨落溝などの痕跡が見つかりました。北面回廊は梁行1間の単廊で、桁行7間分を確認しました。礎石は創建後に据え替えられたもので、基壇外装は平安時代に改修された乱石積基壇でした。創建以来、たび重なる被災を受けましたが、創建期の位置をほぼ踏襲して再建されたとみられます。

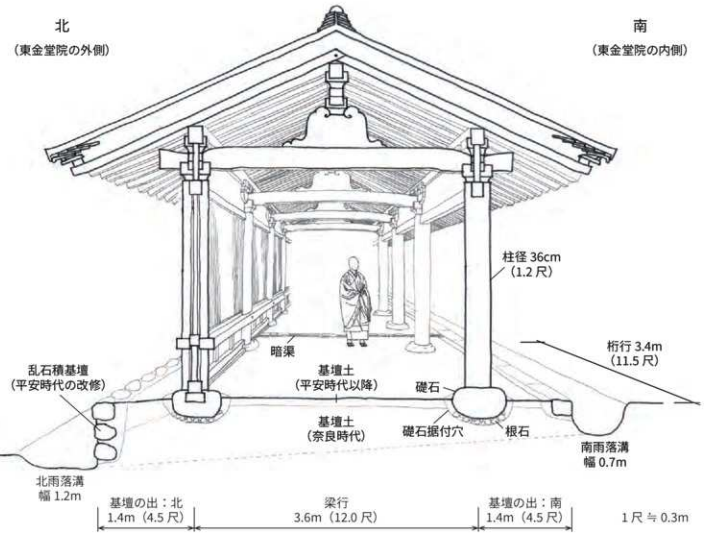
従来、東金堂院の東端は東金堂・五重塔のすぐ東側と考えられていました。今回みつかった北面回廊から、東金堂院は東西100m以上の規模を有する広大な区画であることが判明しました。東金堂院の内部構造を再検討する必要が生じるとともに、興福寺における東金堂院の性格を考える上で重要な成果を提示することができました。



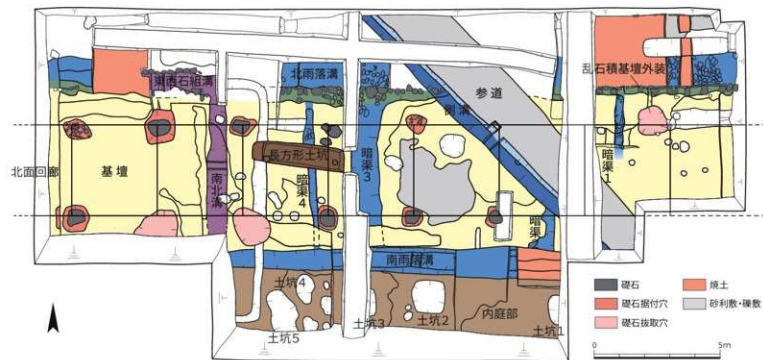
興福寺伽藍復元図と調査地 S = 1 : 2,000

### 東金堂院の略年表

西暦	七六六	七三〇	一〇一七	一〇三一	一〇四六	一〇四八	一〇六七	一〇七八	一一一八	一一二二	一一八〇	一三三六	一三七〇	一三八八	四一四	四一五	四一六	八七二	九四三	九四四
東金堂創建	東金堂創建	五重塔創建	東金堂・五重塔再建供養	東金堂・五重塔再建供養	東金堂焼失(五重塔焼失カ)	東金堂再建の手斧始	五重塔焼失カ	五重塔供養	五重塔供養	東金堂再建の手斧始・上棟	東金堂・五重塔焼失(南都焼討)	東金堂・五重塔焼失(雷火)	東金堂再建	五重塔再建カ	東金堂・五重塔再建	東金堂再建	五重塔上棟	南面築地垣解体	爆風除けなし水槽設置	爆風除けなし水槽設置
歴史																				
東金堂	1次	2次	3次	3次	4次	4次	5次	5次	6次	6次										
五重塔	1次	2次	3次	3次	4次	4次	5次	5次	6次	6次										



北面回廊 推定復元断面透視図【鎌倉時代】(西から)



平面図 S = 1 : 150